

平成 22 年 4 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520566

研究課題名（和文） 中世寺院テキストの成立とその意義—記録類を中心に—

研究課題名（英文） significance of the temple's texts in medieval Japan

研究代表者

稲葉 伸道（INABA NOBUMICHI）

名古屋大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70135276

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：中世史

1. 研究計画の概要

中世の寺院は古文書以外にも多くの史料を今日まで伝えている。それらのなかでも縁起・記録・縁起絵巻・年中行事などを寺院テキストとして総合的にとらえ、それらがどのような過程を経て成立したのか、どのような相互関連にあるのか、歴史的背景は何かを追究しようとするものである。具体的には権門寺院である奈良の東大寺、興福寺、地方寺院である尾張国真福寺所蔵の寺院テキストを検討対象とする。

2. 研究の進捗状況

(1) 中世寺院テキストが全体としてどのような時代に分布しているかを調査した。調査対象は『群書類従』『続群書類従』『国書総目録』に記載されている縁起・記録年中行事である。50 年単位で集計した結果、14 世紀前後期及び 16 世紀前期にピークがあることが判明した。

(2) 東大寺・興福寺など南都寺院の寺院テキストについて調査を行い、必要な史料については写真版を購入し、分析を進めている。「東大寺縁起」が「東大寺絵詞」の原テキストであることはすでに判明しているが、「東大寺続要録」や「東大寺八幡験記」とどのような関係にあるのかは不明である。この点については東大寺全体の鎌倉後期の動向のなかで把握する必要がある。また、「東大寺年中行事」や「東大寺続要録」が鎌倉後期の朝廷や幕府の寺社政策との関連で作成されたとの仮説を立て、検討している。「東大寺縁起絵詞」はさらに室町期に「東大寺戒壇院縁起」「東大寺二月堂縁起」などの縁起、さらには近世の「東大寺雑集録」などに展開すると予想されるが、テキストとしてどのような

相互関連があるかを検討している。また、興福寺についても「類従世要抄」と「御寺務部」の翻刻を行っている。

(3) 真福寺については「太政官符類」の翻刻を行い、「東大寺縁起（記録）」との関連を検討している。

これまでに史料調査した機関は、東大寺図書館・奈良文化財研究所・京都府立総合資料館・京都大学文学部・東京大学史料編纂所・名古屋大須観音宝生院である。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている

(理由) 研究対象を中世寺院全体に拡大し、どのような寺院テキストが存在するのかを把握するのに時間と精力を費やしたこと、及び寺院テキストの調査に重点を置いたため、収集したテキストの内容まで、十分な検討を行っていないことによる。

4. 今後の研究の推進方策

研究機関の最終年度にあたり、これまで収集した寺院テキストの内容と、相互関連、時代背景について研究すること、鎌倉後期南北朝期に寺院テキストが活発に作成された理由を国家（王朝・幕府）の寺社政策との関連で説明することに時間を費やす予定である。時間があれば、もう一つの寺院テキスト作成の時代である戦国期についても検討を加えたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

①稲葉伸道「鎌倉後期の東大寺戒壇院とその

周辺』、『ザ・グレートブッダシンポジウム論
集』6、56p-72P、2008年、査読なし

②稲葉伸道「弘安寺社興行政策の源流につい
て」、『名古屋大学文学部研究論集』史学 55、
81p-96p、2009年、査読なし

〔学会発表〕(計1件)

稲葉伸道「鎌倉後期の東大寺戒壇院とその周
辺』、『ザ・グレートブッダシンポジウム』、2007
年12

月23日、東大寺(奈良市)

〔図書〕(計1件)

稲葉伸道、牧野淳司、臨川書店、『真福寺善
本叢刊(第二輯)東大寺本末相論史料』、2008
年、774p